

1209 トランジェント現象リアルタイムモニタリングのための複合測地データ利用の高度化
担当者 太田雄策(ohta@aob.gp.tohoku.ac.jp)

- ・実施機関（代表機関）名
東北大学大学院 理学研究科

- ・研究目的

本研究計画では、(1) 海陸の複数測地データを用いてプレート境界及びその周辺で発生する巨大地震の規模及びその広がりを即時（イベント発生後 3 分以内）に把握し、それに基づく津波の高精度予測のための技術開発、(2) 数日以下の時定数を持つゆっくりとしたプレート境界上の滑り現象を GNSS データから自動検知するための解析技術の高度化及び地殻変動自動検知のためのアルゴリズム開発、(3) 火山活動の活発化に伴う地殻変動を検出し変動源の推定をリアルタイムで自動的に行う解析システムの開発を行う。これらは準実時間でプレート境界や火山周辺における様々な時間帯域の現象を迅速に把握する上での基盤技術であり、巨大地震発生後の津波即時予測や、プレート境界での滑りシミュレーションに取り入れるためのデータ逐次同化システムへの応用、火山活動の推移予測等を行う上で極めて重要である。これらの技術開発により、プレート境界で発生する津波や火山噴火による被害等の軽減及びプレート境界型地震の短期予測に資するデータの提供を目指し、防災・減災ならびに地震・火山噴火予測に貢献する。